

2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

ニュースレター

「第39号」

2020年6月17日



from 東北

全国諸教会・伝道所の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。今号にあるとおり、東北でも新型コロナウイルス感染症の影響によって現地支援の活動も制限せざるを得ない状況です。しかし、今年度の3月には東日本大震災から10年になります。これまでの活動や証言をまとめながら、今、私たちがなすべきことを考えていきます。今年度もお祈りとお支えをお願いいたします。

盛岡教会では3月8日(日)に予定していた「3.11を覚える日礼拝」を新型コロナウイルス感染対策のために各家庭で礼拝を守っていただくこととしました。



大槌町の様子 2019.12.14

事前に週報と説教原稿と「9年を数えての祈り」が各家庭に配られ、いつもと同じ時間に礼拝を開始し、同じ祈りを合わせることをしました。集まることはできなくてもそれぞれのご家庭で、主の前に祈りをささげました。会堂では牧師と他2名で礼拝がささげられ、インターネットによる配信も行いました。(盛岡教会 小川紋子)

3月8日、震災から9年を数える礼拝を執り行いました。南光台教会では来会時の手洗い、マスク着用等の感染予防対策を励行している中、震災当時会堂で避難生活をされた近隣の方々が今年も参加してくださいました。

国内で唯一感染者の報告がない岩手県。支援先大槌町のNさんの話によれば、直近で県外や海外からの帰国者は検査もされず外出自粛が徹底され、お会いできない方がいる。実際は感染者がいるのではないかとの事でした。(南光台教会 田中信矢)

【ありがとう！吉岡伝道所】

吉岡伝道所は1957年に伝道を開始し、「吉岡バプテストひかりの園」幼稚園の働きを通して地域に福音の種を蒔き、また東日本大震災発生後には、当時の野口直樹牧師のお働きによって、ボランティアの宿泊場所として伝道所が豊かに用いられました。

しかし2013年3月に幼稚園は閉園、2015年3月には吉岡伝道所も閉所し、今年3月に売却が完了しました。吉岡伝道所の歴史は、仙台長命ヶ丘教会が大切に引き継いでいきたいと思っております。これまで伝道所をお支えくださった皆様から感謝いたします。(仙台長命ヶ丘教会 金丸真)



(上)伝道所外観 (下)お別れと感謝

宮城チーム 3.11 牡鹿半島支援報告



花鉢を届けた牧師にて



3月7日(土)、給分浜、黒崎、鮎川、牧浜、月浦の111戸に花鉢を届けました。新型コロナウイルス感染防止のため、お茶っことは開きませんでした。玄関先で挨拶を交わし、港で作業をしている方々とお話することができました。2011年度から9年間、12月のシクラメンと3月の花束・花鉢は、故野口直樹牧師のご縁で、被災した石巻の花屋さん「成田花勝園」に注文し、各浜まで配達して頂いてきましたが、3月末をもって閉店することになりました。これまでのご協力に感謝して写真集をお贈りしました。(仙台教会 一瀬千恵子)

〔成田花勝園さん親子(中央の3名)〕



牡蠣作業中の方々と竹浜の港にて



花勝園さんと花鉢の仕分け作業 給分浜高台住宅にて



3.11 記念の花鉢とカード

当教会では『東日本大震災を覚える礼拝』を3月8日に予定していましたが、教会の近くで、ウイルス感染者が出たこともあり、前半の礼拝を中止したため、3月22日に行いました。この礼拝のために教会員の皆様に短い祈文を提出してもらいそれを基に東北連合の担当の先生方と一緒に『震災を覚える祈り』としての祈文を作りました。9年目を迎えた中で、忘れてはならない思いと、願いを込めて会衆一同心ひとつにして読みあげ、確認しました。(郡山コスモス通り教会 小野寺道子)



国道6号線から見える福島第一原発。一般の方が見ることの出来る場所としては、ここが一番近い距離。



全線開通前に避難解除になった常磐線の「夜の森駅」(撮影、コメント 渡辺敦)